

鯖江市河和田地区での地域貢献活動について*

辰巳 佳次^{*1}

Report on Regional Contribution Activities in Sabae City Kawada District

Yoshitsugu TATSUMI^{*1}

^{*1} Faculty of Environmental and Information Sciences, Department of Environmental and Food Sciences

This report is about the revitalization efforts such as regional resources surveys and participation in agricultural experience and nature watching of Kawada region, Sabae City with the cooperation of local organizations and residents. Based on these experiences and surveys, we examined farm stay, the sixth industrialization, and dissemination of traditional ingredients. With the results of these activities, we would like to implement the investigation results and examine tourism that utilizes regional resources.

Key Words : Regional Activation, Agricultural Experience, Farm Stay, Echizen Lacquerware, Branding of Regional Resources, Traditional Foods

1. 緒 言

鯖江市河和田地区は、市中心部より約 10 km 東に位置し、三方を山で囲まれており、市で唯一中山間地域の指定を受けている地域である。本地域との関わりは、平成 28 年 11 月に鯖江市より「地域住民と連携した地方創生について」として、地域団体との協働事業の申し出が環境情報学部 環境・食品科学科宛にあったことから始まっている。その後、文部科学省 私立大学研究ブランディング事業、福井県鯖江市河和田地区における農泊推進業務委託、課題解決型学習 (Project-Based Learning : 以下 PBL と略す) の一環として、環境・食品科学科学生と共に実施してきた活動について報告する。

2. 活動内容

鯖江市河和田地区は、約 1,500 年以上の歴史を持つ越前漆器で特に有名な地域である⁽¹⁾。しかしながら、年々人口が減少しており、高齢化率 (平成 29 年度 4 月現在) も 36.4%⁽²⁾ となっており、地域の活性化が求められている。本活動では、①農業体験 (農泊体験を含む)、②伝統産業・食の体験、普及、③自然観察会など地域団体の活動への参加、④地域資源の発掘とその活用、⑤その他 について活動を行い、地域または地域資源のブランディングや地域の活性化について検討した。以下に、活動の詳細について述べる。

2.1 農業体験 (農泊体験を含む)

農業体験として、Fig. 1 に示したとおりサツマイモの苗植え・収穫、ブルーベリー畑の柵づくり、ビニールハウスの撤去等を行った。また、収穫物の販売や「河和田くらしの祭典」で加工品の販売も行い、収穫物や加工品の販売などについて検討した。さらに、放置竹林の竹を利用し、竹のチップ化とその活用方法について検討を行う予定であったが、破砕機の借用ができず、ブルーベリー畑の一部で竹チップを利用した雑草の予防効果について

* 原稿受付 2018 年 2 月 28 日

^{*1} 環境情報学部、環境・食品科学科
E-mail: tatsumi@fukui-ut.ac.jp

の試験のみになった。また、近年増えてきている遊休農地の活用について検討するために、鯖江市農林業体験実習館「ラポーゼかわだ」で管理されている貸し農園（ラポーゼ農園）を借用することとした。ラポーゼ農園自身もその約2/3は使用されておらず、一からの整備が必要であり、実際の遊休農地利用時の参考となる部分も多いと思われる。11月からの借用であるため、本年度は農地の整備を重点的に実施することにした。雑草の刈取り、溝の浚渫等の作業が終了した状態である。また、借用する農園の空き地に景観植物を植え、景観という立場から農作物以外の遊休農地の活用についても検討する予定である。特に、環境保全型農業や6次産業・農泊等を意識した内容を検討し、取り組みを行っていききたい。また、検討内容である農泊を理解するために、河和田地区にある農家民宿「ざくろの宿」での宿泊体験も行った。なお、ラポーゼ農園の借用に対しては、鯖江市の多大なご協力を得たことに感謝したい。



Fig1. Photographs of agriculture experience
(These are pictures of sweet potato seedling being planted and rice harvesting.)

2.2 伝統産業・食の体験、普及

河和田地区の伝統産業として、越前漆器が挙げられる。この越前漆器については、ものづくり博覧会や慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科「伝統工芸みらいプロジェクト」などの様々な取り組みが行われているため、漆器そのものよりも伝統産業体験を農泊の体験メニューの一つとして取り入れることを考えるため実際に漆器体験 (Fig. 2 A) を行った。体験からどのような漆器をいくらでできるか等が不明であれば利用者も限られるのではないかと判断し、漆器体験メニューづくりについて現在検討している。この体験メニューは、河和田地区でのインバウンドを考えた場合、非常に重要な要素となると考えられる。また、河和田地区には、伝統的な薬味として「山うに」がある。「山うに」は、柚子・赤なんば・福耳とうがらし・塩を練って作られる薬味である。うるしの里いきいき協議会や越前隊などいくつかの店舗で「山うに」の普及に努められている。さらに、2017年5月に「日本やまうに協会」⁽³⁾も設立された。本活動では、「山うに」を普及させるためには、まず認知度を向上させることが必要であると考えた。そして、認知度を向上させるためには利用方法を周知する必要があると考え、「山うに」のレシピづくりを検討した。また、主原料が同じである「柚子こしょう」との比較（味覚分析）を行い、「山うに」の特徴の把握も行った。レシピづくりについては、桑茶パウダーと山うにのクレープなどのいくつかの料理試作とレシピづくりを行った。大学内での試食では、それなりの評価が得られている。今後もレシピづくりや収集を行い、「日本やまうに協会」やうるしの里いきいき協議会などとも連携しながら、「山うに」の普及方法（SNSの利用等）について検討していききたい。味覚分析については、市販の柚子こしょうに対する相対値となるが、「山うに」は他に比べて香り・酸味が良いという結果が得られている。同時に実施した官能試験においても、柚子の香りや風味という「山うに」の特徴が出ている。この味覚分析の結果も活かし、引き続き「山うに」の普及について検討していききたい。また、現在「山うに」はすべて手作業で作られていることから、実際に作成体験 (Fig. 2 B) を行っており、今後加工方法についても考えていきたい。

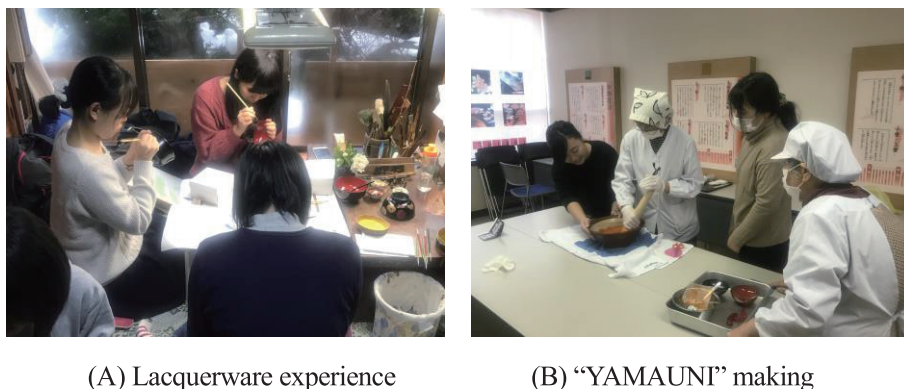


Fig.2 Photographs of lacquerware experience and “YAMAUNI” making.

(A picture (A) is the state writing a sketch on a bowl by a lacquer ware experience. A picture (B) is the state of the "YAMAUNI" making experience.)

2.3 自然観察会など地域団体の活動への参加

河和田地区では、河和田自然に親しむ会を中心に、河和田地区の自然保護活動が行われている。本活動においても、「平成 29 年度かわだのホタルを観る会」、「水辺の生き物観察会」、「冬鳥の観察会 in 河和田」に参加した。さらに、「ふくいのおいしい水」にも認定されている桃源清水の清掃活動および「桃源清水を楽しむつどい」にも参加した。Fig. 3 に「水辺の生き物観察会」および「桃源清水を楽しむつどい」に参加した様子を示す。また、「平成 29 年度かわだのホタルを観る会」の体験を活かし、河和田川の水質調査を行い、その結果をホタル生息地域の 1 例として活用し、福井市内を流下する河川のホタルの再生について検討を行った。



(A) Observation of the waterside creature (B) Event of spring water

Fig.3 Photographs of the state of the event

(A picture (A) is the state observing the creature who picked at the creature observation meeting by the waterside. A picture (B) took a picture of one frame of an event of “Tougen Syouzu”.)

2.4 地域資源の発掘とその活用

河和田地区には伝統的な厄除け行事である「おこない」(Fig. 4 A)が行われおり、漆器に関する狂言「塗師」の演目を舞うという取り組み(Fig. 4 B)が行われている等、伝統・文化においても興味深い取り組みが多い。また、現在は生産されていないが砥石を算出していた砥山や数多くの湧水など利用できる資源が数多く存在している。本年度は他の活動に重点を置いていたため、次年度以降にこれらの活用について検討を行っていきたい。



(A) Traditional event “OKONAI”



(B) Practice of Kyogen "NUSHI"

Fig.4 Traditional events listed as regional resources in the Kawada district of Sabae City

(A picture (A) is a picture of people preparing for a traditional event called “OKONAI.” A picture (B) is a picture of people practicing Kyogen “NUSHI”.)

2.5 その他

河和田地区は、京都精華大学・京都大学・早稲田大学・慶応大学など多数の大学の学生の受け入れており、活動の中で他大学との交流もあった。そのため、河和田地区を学生交流の場として活用できないかも検討したい。以上の活動の他にも、様々な情報収集のために、NPO 法人かわだ夢グリーン（石川県鳳珠郡能登町「春蘭の里」）やNPO 法人さばえ NPO サポート運営の「河和田井戸端皆議」などにも参加した。

3. 結 言

本活動は、文部科学省 私立大学研究ブランディング事業、福井県鯖江市河和田地区における農泊推進業務委託、PBLの一環として取り組んだ。受入れ団体からは住民からの評判も良いと聞いており、地域との繋がりができつつあり、活動の地盤ができたと考えられる。今後、ブランディング事業としては、今回の取り組みを参考事例として農業・漆器・伝統行事体験を加味したツーリズムの検討を行っていきたい。また、PBLとしては、学生の主体的な活動が十分であるとは言えない部分もあるため、再度どのように学生に関わらせるか等を検討しながら取り組んでいきたい。

謝 辞

本活動は、文部科学省 私立大学研究ブランディング事業『宇宙』事業推進のために地域と協働する“ふくい PHOENIX プロジェクト”，NPO 法人かわだ夢グリーンから 農林水産省 平成 29 年度 農山漁村振興交付金（農泊推進対策）「福井県鯖江市河和田地区における農泊推進」の業務委託および学校法人金井学園 福井工業大学の支援を受けて行われたものであり、謝意を表します。また、受け入れをしていただきました NPO 法人かわだ夢グリーンをはじめとする鯖江市河和田地区の各種団体、住民の方および牧野百男市長をはじめとする鯖江市役所の方に厚く感謝いたします。

文 献

- (1) うるしの里かわだまちづくり協議会，“暮らしを紡ぐまち河和田”について”，<http://kawada-t.jp/>（参照日 2018 年 2 月 26 日）
- (2) 鯖江市，“鯖江市の高齢化状況（平成 29 年 4 月 1 日現在）”（参照日 2018 年 2 月 26 日）
https://www.city.sabae.fukui.jp/kenko_fukushi/koreishafukushi/koreikajyokyo/2017koureika.html（参照日 2018 年 2 月 26 日）
- (3) 日本山うに協会，<http://j-mua.com/>（参照日 2018 年 2 月 26 日）

（平成 30 年 3 月 31 日受理）